

第4回長崎県総合計画・総合戦略懇話会（にぎわい・まち部会）議事録

日時：令和7年10月9日（木）14：00～15：00

場所：長崎県庁大会議室B

出席：黒木部会長、植松委員、大久保委員、桑原委員、城委員、由井委員
（Web出席）星野委員

（事務局）

それでは、「第4回 長崎県総合計画・総合戦略懇話会 にぎわい・まち部会」を開会いたします。

私、企画部次長の川端と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、1月の第1回懇話会以降、次期総合計画について熱心にご議論いただき、心から感謝申し上げます。

前回、7月30日の第3回懇話会の時点では、10年後の長崎県のめざす姿である「基本理念」をまだお示しすることができておりませんでした。これまでの懇話会での議論やご意見を踏まえ、県民の皆様にわかりやすく伝わるメッセージとして、

「長崎の誇りと希望を力に、みんなで夢あふれる未来をひらく」

を基本理念として掲げることといたしました。

また、10月6日に県議会が開会いたしました。県議会においてもこの基本理念を含む次期総合計画（素案）をお示しし、数値目標や事業群の取組などについて、様々な議論をいただいたところです。

並行して、6日までパブリックコメントも実施し、県民の皆様からいただいたご意見についても、内容に応じて反映させ、成案として整えていきたいと考えております。

皆様にお力添えをいただきました次期総合計画策定のための懇話会は、本日の第4回をもって一旦最後となります。隣に席を用意しておりますが、この後の全体会にて各部会長からこれまでの総括として、部会での議論を報告していただく予定です。

本日の部会では、これまでご議論いただいた5つの柱の内容のほか、地方創生や県民所得向上などのテーマ別の取組、地域別の取組を含めた現時点での総合計画（案）についてご説明させていただきます。その後、委員の皆様から計画（案）全般に関する所感や、今後に向けてのご意見などを頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

黒木部会長

皆さん、こんにちは。

1月に第1回の懇話会を開催し、今回が第4回目となります。皆さんのおかげで、活発な議論が続けられ、懇話会での意見や提案については、計画の素案にも数多く反映されているようです。

本日が最後の懇話会ということになります。限られた時間ではありますが、言い残したことがないよう、積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは、最初に事務局から本日の資料についてご説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、私の方から長崎県総合計画案についてご説明させていただきます。10 分ほどお時間をいただきます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料をご準備ください。青い表紙の冊子です。この計画案は、最終案に近い形で取りまとめたものとなっておりますので、ポイントを絞ってご説明いたします。

まず表紙ですが、次期総合計画の名称は「長崎県総合計画 みんなの未来図 2030」としております。現行の計画は「チェンジ&チャレンジ 2025」でしたが、今回は「みんなの未来図 2030」とし、これからの5年間の県政の方向性を未来図として示し、それを県民の皆様と一緒に進めていきたいという思いを込めています。

次に6ページをご覧ください。基本理念は「長崎の誇りと希望を力に、みんなで夢あふれる未来をひらく」と掲げております。このフレーズには、長崎県に対する誇りや将来への希望を原動力に、県民の皆様と一緒に新しい長崎県づくりに取り組んでいくという姿勢を込めています。「ひらく」は、あえてひらがなで表記し、「未来を切り拓く」という意味に加え、ブランドメッセージ「みなが咲き、ながさき。」とも連動し、夢や希望が花開くという意味も込めています。

10 ページでは、基本理念を実現するための基本姿勢を9つの視点で示しています。すべての施策に共通する視点であり、デジタル技術の活用、戦略的情報発信、ブランディング、多様な主体との連携協働、SDGsの反映などが含まれています。なお、ブランドメッセージ「みなが咲き、ながさき。」については、資料の最後の206ページ以降に情報発信戦略として掲載しております。

11 ページでは、5つの政策の柱と、それぞれの10年後のめざす姿を示しています。

12 ページでは、各柱の「ありたい姿」を4～5項目ずつ具体的に記載しています。

13 ページには、基本戦略と施策の体系図を掲載しており、前回の懇話会でいただいたご意見を踏まえ、施策名称の微調整を行いました。例えば、柱「こども」の基本戦略1施策4については、「魅力ある教育環境づくり」から「魅力ある学校教育の環境づくり」に修正しています。

14～19 ページでは、SDGsの目標と各施策との関連を整理した表を掲載しています。

20～141 ページでは、12の基本戦略と45の施策を記載しており、前回までの懇話会での意見を踏まえ、成果指標や主な取組内容に修正を加えました。調整中だった指標については、アンケート結果などをもとに赤字で数値目標を記載しています。

主な修正点としては、「こども」の柱において、22ページに「ココロねっこ運動」の理解・実践割合、24ページに相談できる人・機関を知っている児童生徒の割合、34ページに温かい社会の実現に向かっていく人・機関を知っている人・機関を知っている人・機関を知っている人・機関を知っている人の割合や人生設計を考えたことがある人の割合などがあります。これらは県民アンケートを基に基準値を設定し、目標値を定めたものです。40ページでは、ひとり親家庭の親の正規職員・従業員の割合という指標を新たに追加しています。

「くらし」の分野では、45ページに地域で必要な医療・介護サービスを受けられている人・機関を知っている人・機関を知っている人・機関を知っている人の割合、51ページに地域で支え合いながら生きがいを持って生活できていると感じている人の割合、61～62ページに食品の安全性に関する理解度や消費者教育の講座受講

者の理解度など、67 ページには水や空気がきれいで生き物が守られていると思う人の割合などがあり、いずれも数値目標を設定しています。

「しごと」の分野については、前回からの変更や追加はありません。

にぎわい・まち部会でご議論いただいた内容としては、104～106 ページに観光消費額、観光消費単価、延べ宿泊者数、観光客の満足度についての数値目標を設定しています。前回統計が未確定でしたが、今回判明したため反映しています。118 ページでは、交通ネットワークの成果指標について「市町村庁舎」から「市町の中心部（市町村庁舎の所在地）」に表現を修正しました。

「まち」の分野では、126 ページに災害に強いまちづくりが進んでいると思う人の割合、133 ページにまちづくりが良くなっていると思う人の割合について、アンケート結果を基に数値目標を設定しています。

142～162 ページでは、県政全般にわたる重要課題をテーマ別に整理しています。地方創生、県民所得向上、しまの創生、国際県・長崎の4つのテーマについて、現状や課題、めざす姿、数値目標、主な取組を記載しています。主な取組は、先に説明した5本の柱の内容を再掲したものです。

163 ページ以降では、振興局ごとの地域別取組を掲載しています。地域の特性や課題を踏まえ、めざす姿と重点的な取組をまとめています。策定にあたっては、地域で活躍する方々や市町との意見交換を実施し、得られた意見を反映しています。県全域で共通して取り組む事項は計画本体に記載し、地域別の取組では特色を生かした内容を重点的に掲載しています。

205 ページでは、計画推進のための県庁内部の体制について記載しています。行財政改革、PDCA サイクルの展開、ブランディングの推進などが含まれています。

今後のスケジュールですが、9月16日から10月6日までパブリックコメントを実施し、市町や関係団体、県議会からも意見をいただいております。本日の懇話会でのご意見も加え、計画（案）を整え、11月の県議会に議案として提出する予定です。

議決後は、県民への周知を進める段階に入ります。全体版とダイジェスト版の冊子を作成し、広報誌、テレビ、ラジオ、SNSなどを活用して広報を行います。また、県政出前講座などを通じて職員が地域に出向き、説明や意見交換を行う予定です。

計画の推進にあたっては、県民の皆様はもちろん、産官学、金融界、労働界、マスコミなど多様な主体との連携・協働が不可欠です。基本理念「長崎の誇りと希望を力に、みんなで夢あふれる未来をひらく」が実現されるよう、県民一人ひとりが主体となって新しい長崎県づくりに参画いただけるよう、精一杯努めてまいります。

なお、前回の懇話会でいただいた意見の反映状況については、参考資料として配布しておりますので、あわせてご確認ください。

以上、事務局からの説明を終わらせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

各委員コメント

黒木部会長

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。先ほど事務局からご説明がありました通り、総合計画（案）に関するもののほか、これまでの懇話会での議論の感想でも

結構です。また、今後の計画の周知に関するアイデアや、計画の推進にあたって期待することなど、何でも結構ですので、言い残したことがないように、ぜひこの部会場でご意見を頂ければと思います。

この後、全体会議も予定されていますが、時間の関係上、そこで細かい議論をすることは難しいと思われるので、ぜひこの部会でご発言いただければと思います。時間も限られていますので、まずは一通り皆様からコメントをいただき、その後残された時間で、自由に挙手制で議論を深めてまいりたいと思います。

植松委員

私はこの半年以上、何度か長崎県に足を運び、長崎県のことを勉強させていただく中で、非常に興味を持ちました。それまでほとんど長崎県のことを知りませんでしたが、話をすればするほど、聞けば聞くほど、勉強すればするほど、非常にポテンシャルの高い地域だと感じました。以前も申し上げましたが、地域の中にいると気づきにくい価値が、外から見るとよくわかるということを実感しています。私の拙い意見やコメントが少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

また、今回の計画（案）を拝見し、県政の重要課題として4つの柱が立てられていることに注目しました。県民所得の向上や地方創生は、全国的にも取り組まれている課題ですが、国際県長崎という視点は非常に面白いと感じました。長崎県が持つ国際性のポテンシャルの高さについては以前からお話ししてきましたが、これを具体的に実現に向けて取り組まれることを期待しています。

大久保委員

数年に一度の総合計画の策定ということで、担当された各部局の皆様には大変なご苦労があったことと思います。非常に良い計画に仕上がったのではないかと感じています。

特に印象的だったのは、計画のボリューム感です。現行の計画は参考資料も含めて300ページを超えていましたが、今回は約200ページと、約3分の2にまとめられており、必要なグラフなどはしっかり残しつつ、写真を一切使わないなど、コンパクト化の工夫が感じられました。素案の段階からさらにブラッシュアップされており、ブランドロゴやブランドメッセージも、最初の方ではなく最後に配置されている点など、議論を重ねた成果が見られます。文章も短く整理されており、読みやすさを意識された結果だと感じました。

公共交通に関しても、人口減少を踏まえ、単純に利用者数を増やすのではなく、減少をどれだけ抑えられるかという視点が重要ですが、例えば九州 MaaS や自動運転といったトレンドも盛り込みながら、現実的な目標設定がされており、無理のない背伸びをしない計画になっていると思います。

この計画は作って終わりではなく、これからがスタートです。技術革新やパンデミックなど予測できない変化にも対応できるよう、PDCA サイクルを回しながら継続的にブラッシュアップしていくことが重要です。県民、移住者、観光客に選ばれる長崎を目指す指標として活用されることを期待しています。

また、県民の皆様に見ていただかないと意味がありませんので、自分事として捉えていただけるよう、積極的な周知をお願いしたいと思います。

桑原委員

長崎県はエリアも広く、歴史も深い地域ですが、今回の計画ではそうした部分もフォローされており、長崎市中心になりがちな視点が、離島も含めた「一つの長崎県」としてアピールできる内容になっていると感じました。ブランドメッセージもダブルミーニングが込められており、アイデアが詰まっていることが伝わってきました。

また、長崎の歴史的背景から、平和や核兵器廃絶といったテーマは欠かせないものであり、イベントなどを通じてアピールしていくことが重要だと感じています。

西九州新幹線の今後についても、県民や関係県に対して長崎からの積極的なアプローチが必要だと思います。

城委員

離島は高齢化や人口減少が進み、航路・航空路の廃止や減便、医療従事者の不足など、非常に厳しい状況にあります。令和9年3月には有人国境離島法の改正・延長が予定されており、これが非常に重要なポイントとなります。「しまの振興なくして長崎の発展なし」という言葉を思い出し、県、離島市町村、事務局が一体となって新しい長崎県づくりに取り組んでいきたいと思っています。

由井委員

まず今回の計画を見せていただきまして、現状の課題とか主な取組の項目を分割されたり統合されたりして、さらに読みやすくなったという印象を持ちました。そして、「支援」という表現が「促進」という文言に変更されたり、あるいは「広域」という文言が加えられたりした箇所がいくつかありましたので、より基本理念に沿った表現になりつつあるという感じを持ちました。

その反面、なじみの薄い言葉が使われている場面が多くあるように感じまして、前回「スフィア基準」という言葉に関して大久保委員がおっしゃっていましたが、「リダンダンシー」とか「アーバンデザインシステム」、こちらの「アーバンデザインシステム」は県独自の試み・体制でされていると思うので、やはり一般的な意味と違いますので、注釈をつけていただくといいのかなと思いました。

また今回の計画に関して、パブリックコメントを書き込むサイトの資料にもこの同じ資料が掲載されていたと思うのですが、文言に関する注釈がありませんでしたので、県民の皆さんにわかりやすくという点では少し残念だったかなと思います。

全体としましては、今回私、公募委員ということで参加させていただいて、大変勉強になりました。ありがとうございました。

当初は資料の内容も難しく、その量が膨大でしたので、「来るところを間違ったかな」という感じで、自分に何ができて、また何を求められているのかもわからず、かなり戸惑ったのですが、自分の専門分野は「長崎県民である」ということだと考えて、まず資料を読んで、初歩的な疑問でも恐れずに述べさせていただいたという感じです。

私は、県や町で男女共同参画の推進に携わっており、関係する議論に携われるかと期待したが、18～19ページの施策とSDGsの関係のとおり、「にぎわい・まち」のところには、ジェンダー平等に関する項目が1つもなく、個人的に少し残念なところでもありました。

今回参加させていただく中で、総合計画の立案にあたって多くの方が、本当に多くの時間をかけて、知識・見識を相当総動員して取り組まれているということが大変よくわかりました。そういうことを実際に私が見聞きして理解することも、公募委員としての役割だったのかなと今思っております。

だからこそ、この後、計画がより多くの県民の皆さんにわかりやすく伝わるように、また実行性の高い、県民のためになるものになってほしいと思います。

また今後、私自身もアンテナを高く張って、県民としてさらに視野を広げていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

星野委員

今回の総合計画（案）を眺めまして、県民の目線としては、自分に関係する、特に地域別の取組などがすごく興味深く、身近なものだなと思いながら拝見しておりました。

本計画も、やはり県民の目線で見ると、自分に関係するところをすごく見るのかなというふうに思っています。今回参加させていただいて、こういった中に書いてある一文で「こういうことをします」と書いてあっても、その奥にはたくさんの議論ですとか、実際に動いているプロジェクトが非常に奥深く広がっているということが感じられました。

そのように考えると、計画を作った後に、計画がどのように進んでいるのかとか、今後どのように実行されていくのかとか、そういったところまで辿ることができるようになってくるとよいと考えています。理想的なところと言えば、例えばウェブサイトを活用して、実際にこの一つ一つの計画がどのように実行されているかが見える化されていると嬉しいです。

すごく勉強になりました。ありがとうございます。

黒木部会長

それでは最後に、私の方から若干コメントをさせていただきたいと思います。

まず、県の皆様におかれましては、本総合計画（案）の取りまとめにあたり、大変ご苦労されたことと思います。県庁内には多数の部局がございますが、それぞれに照会をかけ、調整を行い、さらには私ども部会や全体会においても、自由な発想のもとで議論をさせていただきました。そうした意見を真摯に受け止めていただき、今回の参考資料として「意見の反映状況」が示されておりますが、関係部局に一つひとつ振り分け、精査いただいたことに対し、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回完成した総合計画を拝見しましても、すでに委員の皆様からコメントがありましたように、これまで長文で議論を尽くしてきた内容が非常にブラッシュアップされており、県民向けにうまくコンパクトに整理されていると感じております。

特に印象的だったのは、11ページの図など、各施策が非常に密接に絡み合っている点です。私どもの部会においても、他の部会の施策に大きく影響を受けるというご意見がありましたが、そうした関係性をうまく「見える化」していただいたことに、深く感謝申し上げます。

私事になりますが、長崎に赴任してから、ようやく 10 年目を迎えようとしております。長崎のことを理解しているつもりでございましたが、今回このような機会をいただき、まだまだ勉強不足であることを改めて認識いたしました。多くの気づきがあり、非常に有意義な経験となりました。

また、今回の総合計画を通じて、長崎には大きなポテンシャルがあると改めて感じました。一方で、第 1 回の部会でご出されたご意見にもありましたように、その魅力をうまく発信できていないことが非常にもったいないと感じております。この総合計画を起点として、県、そして県民の皆様とともに、これからの長崎を築いていくことになるのだろうと考えております。

先ほど由井委員から、多文化共生やジェンダー平等についてのご指摘がありましたが、今後私たちが考えていかなければならないのは、施策や事業が複雑に絡み合っている中で、地域コミュニティの「絆」が問われているという点です。これは確か由井委員からのご指摘だったかと思いますが、絆が強ければ強いほど、異なる考え方を持つ方々が入りづらく、発信しづらいという課題があります。例えば、古い地域では男性社会が根強く残っており、女性がなかなか溶け込めないという問題提起もあったかと思います。これは非常に貴重なご意見であり、私自身も勉強させていただきました。

この総合計画の中には、ジェンダー平等や多文化共生という視点とともに、地域の絆・コミュニティの絆という言葉も含まれています。これらの言葉は互いに関係し合っており、総合計画を読み解く際には、そうした背景を理解することが重要だと感じております。

今後、県の皆様がこの計画を県民の皆様にも周知されることと思いますが、そうした点も含めて、県民の皆様の理解が深まるよう、ぜひご尽力いただければと考えております。今回の総合計画を拝見し、本当に頭の下がる思いでございます。

一旦、私からのコメントは以上とさせていただきます。ご自由に挙手いただき、ご意見を願います。

黒木部会長

私から素朴な疑問を一つお尋ねさせていただきます。

今回の計画名は「長崎県総合計画 みんなの未来図 2030」となっておりますが、5 ページにも記載があるように、今回の懇話会は総合戦略も兼ねているとのこと。これまで県には別途総合戦略があったかと思いますが、今回の計画はそれらを統合した新しい計画という理解でよろしいでしょうか。

形式的には「長崎県総合計画・総合戦略」といった名称になるのかとも思いましたが、それではあまりにも長いため、「長崎県総合計画」という名称に統一し、その中に総合戦略も含まれているということで整理されているのだろうと個人的には理解しておりますが、よろしいでしょうか。

(事務局)

黒木部会長のご理解、まさにおっしゃっていただいた通りです。

これまで総合計画は、5 年に一度策定してきたものであり、長い歴史があります。一方、総合戦略は、国が地方創生に取り組み始めた平成 27 年以降、国の総合戦略を踏まえて、各

地方でも「地方版総合戦略」を策定し、人口減少対策に力を入れていこうという流れの中で作られたものです。

県として取り組むにあたっては、総合計画と総合戦略の整合性をしっかり図る必要があります、これまでもその点に留意してきました。今回、両計画の終期が同じ年度であることから、県民の皆様に対して「県が何を目指し、どのような長崎県をつくろうとしているのか」をわかりやすく示すために、一本化して取り組むことが望ましいと判断いたしました。

人口減少対策は、長崎県全体を巻き込む重要課題であり、総合計画と総合戦略を別々に捉える発想は、もはや適切ではないと考えております。そのため、今回の計画では、テーマ別の章に「地方創生」のページを設け、総合戦略や人口減少対策の内容を盛り込んでおります。

名称については、「長崎県総合計画・総合戦略」とした方がより伝わるかもしれませんが、ご指摘の通り、表現が長くなってしまうため、「長崎県総合計画」という名称に統一し、その中に人口減少対策も含まれていることを丁寧に説明していく方針です。

大久保委員

現行の計画よりも以前から、総合計画という名称でなくとも、県の最上位計画は昔から存在していたということによろしいでしょうか。

（事務局）

その通りです。総合計画は以前から存在しており、県政の「羅針盤」としての役割を果たしてきました。その下に、農業、水産、産業などの個別計画があり、総合計画の方向性に沿って、それぞれの分野で深掘りした計画が策定されてきました。

大久保委員

私自身、佐世保出身で、長崎市での勤務も20年ほどあり、長崎と福岡を行き来してきたが、例えば高校生の頃に総合計画の存在を知っていたかというところ、正直なところ知りませんでした。今回この計画に携わらせていただいて、初めてその存在を認識したというのが実情です。

そう考えると、若いうちからこうした計画があることを「刷り込む」といいますが、学校のカリキュラムや授業の中で説明する機会があると良いのではないかと思います。大学でも同様ですが、若いうちからこうした計画の存在を意識に取り込むことは、周知の観点からも非常に有効ではないかと感じました。

（事務局）

大久保委員からご指摘いただいた通り、今回の総合計画を策定するにあたって意識したのは、長崎の未来を考える上で、若い世代の方々に長崎のことを「自分ごと」として捉えていただきたいという点です。

人口は減少していくという現実がありますが、それでも長崎県は明るい未来に向けてしっかり取り組んでいきます。どうしても目が東京などの都会に向きがちですが、地元・長崎でも楽しく幸せに暮らせるということを知っていただくことが大切だと考えています。

総合計画そのものはボリュームがあるため、最後にご説明した「ダイジェスト版」を今後作成し、若い方々に重点的に伝えたい内容をまとめていく予定です。昨今、学校では探究学習が進んでおり、大学でも「どこで暮らすか」という選択が「どこで働くか」という選択に直結するため、就職に関する話の中でも、暮らしの魅力を一緒に伝えていきたいと考えています。年齢に応じたアプローチで、総合計画を自分ごととして捉えてもらえるよう取り組んでまいります。

植松委員

「案を出して計画を策定し、それを実行に移す」という接続部分が非常に難しいと感じます。県の最も重要な仕事は、この実行部分にかかってくるのではないのでしょうか。

民間の立場から申し上げますと、「計画を作りました。ホームページにアップしましたのでご覧ください」では、誰も気づかない可能性があります。現場に近づいて、例えば学校で地域創生を題材にした授業を行うなど、教育委員会や現場の先生方と具体的な話をしていくことが必要だと思います。

教育以外の分野でも同様に、現場に寄り添い、相手のモチベーションを高めるようなきめ細かい対応が求められるのではないのでしょうか。

例えば、静岡県沼津市では、地域課題をテーマに探究学習を行っており、市役所や県庁がそうした取組を支えているのではないかと思います。大きなテーマを行政が考え、それを具体的にブレイクダウンして実行に落とし込む作業を、ぜひ県庁の皆様にもお願いしたいと考えています。

由井委員

毎回資料を Web か紙のどちらかでいただいておりますが、紙の資料を事前にいただくと、書き込みや準備がしやすく、大変助かります。手間のかかる作業とは存じますが、可能であればご検討いただけますと幸いです。

星野委員

これは質問でもあるのですが、7 ページの「時代の潮流」にある人口減少の項目についてです。この章は「目指すべき未来の姿」という位置づけで書かれており、少子高齢化の進行が起きているだろうという趣旨が述べられています。ただ、ここには現状の人口減少の状況は記載されているものの、2030 年までにかけて今後どうなるのかという予測が明記されていないように思います。

この総合計画を実施するにあたって、現在のペースで人口が減少していくことを前提として計画を進めていくということなのではないのでしょうか。つまり、人口減少は進むけれども、そのペースを前提に施策を展開していくという姿勢なのかが気になりました。

（事務局）

総合計画を策定するにあたり、将来の長崎県の人口をどう捉えるかは非常に重要な視点であり、県では個別に人口推計を行っております。検討にあたっては、複数のシナリオを用意し、社会減と自然減の両面から分析を行いました。

社会減については、近年まちづくりの進展などにより、数値がやや改善傾向にあります。一方で、自然減は拡大しており、昨年の出生数は約 7,000 人と、以前の 1 万人規模から大きく減少しています。これはコロナ禍の影響もあり、急激な減少が見られました。

今回の計画では、少子化対策として出生率の改善に注目し、18 歳から 49 歳までの県民を対象にアンケートを実施しました。現在の合計特殊出生率は 1.39 ですが、希望出生率は 1.84 という結果が得られました。以前の希望出生率は 2.08 でしたので、多少の減少はあるものの、依然として子どもを持ちたいという希望を持つ方が多いことが分かりました。

この結果を踏まえ、施策を講じた場合に出生率が改善される可能性を見込み、10 年後には 1.84 に近づけることを目標としています。また、2040 年には社会減（転出入の差）を均衡させることを目指しており、最悪のシナリオと比較すると、人口規模にして約 5 万人の差が生じる可能性があります。

したがって、現状の減少をそのまま受け入れるのではなく、減少の速度を緩やかにすることを目指して施策を展開していくという姿勢で取り組んでおります。

黒木部会長

今後、施策を展開していくにあたって、やはり「いかに県民の皆さんを巻き込んでいくか」が大きな課題になると感じています。国土形成計画にもある「内発的発展」という言葉の通り、県民の皆様が自ら率先して地域に貢献していくような仕組みづくりが、今後ますます重要になってくると思います。ただ、それを実現するのは簡単ではなく、難しい面もあるかと思っています。

そのような点も含めて、長崎県庁だけでなく、県内市町や国や他県、そして、さまざまな団体の皆様からも知恵をお借りしながら、私たち大学も含めて一緒にこの総合計画を盛り上げていく必要があると感じています。

また、冒頭で委員の方からご指摘がありましたが、私もこれまでの分科会や部会でお話したかと思います。もし可能であれば、県民の皆様にとってより分かりやすいように、巻末に用語集のようなものを設けていただけるとありがたいです。ご検討いただければ幸いです。

さらに、気づいた点として、前回の総合計画では「地域別計画」とされていたものが、今回は「地域別の取組」という表現に変わっています。地域別の数値目標がなくなっていたり、過去の計画にあった個別計画がなくなっていたりする点から、より実践的な内容にブラッシュアップされたのではないかと感じています。

先ほど次長からもご説明がありましたが、県民の皆様に多くの情報を提示すると、かえって混乱を招く可能性があるため、本当に必要な情報に絞って整理されたのだと理解しています。もしこの点について、事務局の方から補足がありましたら、よろしく願いいたします。

（事務局）

まず 1 点目、用語の説明についてですが、確かに片仮名語や聞き慣れない言葉が多く使われております。例えば「アンコンシャス・バイアス」など、前回の計画にはなかった新しい

概念も含まれています。こうした言葉については、注釈を付けるなどして、最終的に整理する際に用語集として準備したいと考えております。

次に、黒木部会長からご指摘いただいた「地域別の取組」についてですが、これまで「地域別計画」としていたものを、今回は「取組」という表現に変更しました。地域別というと、すぐに市町単位を連想されるかと思いますが、市町もそれぞれ総合計画や総合戦略を策定しており、独自の目標を掲げています。そのため、県の地域目標と市町の目標が並立することで、複雑な構造になってしまう懸念がありました。そこで今回は、市町と意見交換を重ね、総合計画や総合戦略との整合性を図ったうえで、「取組」という形でまとめました。もちろん、市町が持つ目標とのすり合わせは不可欠であり、県が右を向いて市町が左を向くような進め方はできません。そのため、意識合わせを行いながら、地域別の取組として整理した次第です。

桑原委員

やはり若い世代の方々に長崎の魅力をこの計画を通じて知っていただきたいという思いがあります。

「みんなの未来図 2030」のロゴはすでに決まっているものかと思いますが、ぱっと見たときに、少し控えめというか、おとなしい印象を受けました。主張が弱く感じられる部分もあるので、もしブラッシュアップの予定があるようでしたら、より伝わるような工夫ができるのではないかと思います。ご検討いただければ幸いです。

また、ダイジェスト版を作成されるとのことですが、動画なども含めて、若い方々にはそうしたメディアの方が伝わりやすいと思います。ぜひ、長崎の魅力をさまざまな形で発信していただきたいです。

さらに、県外の方にも長崎を知っていただき、交流人口を増やすことは、人口減少対策としても、商業を営む方々にとっても非常に重要なことだと思います。そうした観点からも、ぜひ取り組んでいただければと思います。

（事務局）

ありがとうございます。

若い方々にしっかり伝えるというのは、私たちにとっても非常に大きな課題です。情報発信を担当する部局とも連携しながら、「どうすれば若い世代に伝わるのか」を一緒に考えていきたいと思っています。

黒木部会長

それでは、予定の時間となりましたので、限られた時間の中ではありましたが、本日は本当に熱心なご議論をありがとうございました。

本日、各委員の皆様からいただいたご意見につきましては、ぜひ県庁の方で今後の計画に反映していただけますよう、ご検討のほどよろしくお願いいたします。

最後の部会となりましたが、委員の皆様にはスムーズな進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

（事務局）

黒木部会長、どうもありがとうございました。

本日、皆様からいただいたご意見につきましては、計画案に反映させていただき、次回の11月県議会に提出する予定です。

また、今回は計画案そのものだけでなく、今後の実効性を高めるためにどうすればよい
か、県民の皆様はどう伝えていくかなど、今後に向けた貴重なご意見も多数いただきました。私たちも、総合計画は「作って終わり」ではなく、しっかりと実行していくことが重要
だと考えております。

それでは、これをもちまして「第4回 長崎県総合計画・総合戦略懇話会 にぎわい・まち
部会」を閉会いたします。

本日この後、15時30分から左側のお席にて全体会を予定しております。委員の皆様
におかれましては、それまでの間、ご休憩などをお取りいただき、15時30分までにご着席
くださいますようお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。